

第28回

秀麗富嶽十二景写真コンテスト

入選作品

最優秀賞

雪化粧の朝 竹端 榮（神奈川県相模原市） 百蔵山



撮影者コメント

Singh-Ray 社の LB Color Combo Polarizer を利用して、雪化粧した夜明けの微妙な色合いを表現した。

川隅功氏講評

雪の日の次の日の朝、なんとなく青みがかかっている雪景色が、段々と朝が起きてきて淡い紅色に染まってくる光景を、見事にプリントに表現されています。偏向フィルターを使ってその色調をコントロールして、しっとりと柔らかい感じそのままに、非常に細かいところまで気持ちを入れて撮影に臨んで、それが見事なプリントに表れていると思います。

日本画調で、今までのコンテストでは珍しく、過去にないような作品を今回の最優秀賞として選ばせていただきました。

推薦

悠然と

高津 秀俊（山梨県大月市）

岩殿山



撮影者コメント

雲海が眼下に広がり、静かに滝雲が流れ、悠然とした富士山に寒さを忘れていた。

川隅功氏講評

手前の濃霧を長時間露光で撮影した結果、綿雲のような柔らかいトーンの表現が素晴らしい反面、富士の姿は凜とし、神々しさを感じます。

推薦

雲湧く

大戸 康世（山梨県大月市）

雁ヶ腹摺山



撮影者コメント

次から次へと湧き上がる年に一度あるかないかの雲の流れの変化に興奮してシャッターを切りました。

川隅功氏講評

前景の樹木や山々の効果が発揮され、富士の姿に奥行きさを感じます。雲がどんどん変化する中、絶妙なシャッターチャンスで捉えられています。

特選

星夜の頂 小俣 仁（山梨県都留市） 大蔵高丸



撮影者コメント

深夜登山。コロナ禍の小屋灯のない富士が星夜に映える

川隅功氏講評

真夏の晴天の深夜に登山され、目的をもって撮影に行かれたと思います。ここまで挑戦したからには、もっと長時間に渡り撮影していただきたかったと、残念に思います。

特選

黄金に輝く 村上 敏幸（山梨県大月市） 百蔵山



撮影者コメント

孫悟空の筋斗雲を想像しながら撮影

川隅功氏講評

黄金に輝く雲の色彩の強烈さが鑑賞者にインパクトを与える作品です。長めのレンズを使用し、画面一杯にフレーミングされた相乗効果が出ていると思います。

特選

夕焼け雲 小林 博文（山梨県甲府市） 高川山



撮影者コメント

高川山の山頂に着くと、想像していたより大きな富士が目の前に広がっていた。夕焼けに染まる雲と共にフレームに収めました。

川隅功氏講評

夕日が手前の山の稜線に隠れた後の撮影ですが、それが功を呼び、より一層色合いが増したと思われます。雲の形が大空に広がる様子を的確にフレーミングされていると思います。

白簾史朗賞

幻想に包まれて

細井 健司（東京都世田谷区）

岩殿山



撮影者コメント

雨上がりの未明、大月の街を包む朝霧が素晴らしかったです。霧のディテールが失われないよう 30 秒のシャッターで撮影しました。

川隅功氏講評

本人のコメントに書かれていましたが、雨上がりの次の日に霧につつまれたその感じを出したかったと言うことで、目的をもって撮影に臨まれるような意欲的な撮影スタイルが見事です。非常に幻想的で、おそらく本人の狙いが的中し、それを十分な技術でプリントして表現できたのではないかと思います。

入賞

晩秋の朝 境 実（神奈川県相模原市） 雁ヶ腹摺山



撮影者コメント

東の空にあった雲がとれ始め、富士山中腹とダケカンバの中にあるカエデの紅葉に太陽が当たりました。すかさずにカメラのシャッターを切りました。撮影前に富士山の上にあったすじ状の雲がその時には笠雲となっていました。

川隅功氏講評

手前のダケカンバ・カエデに日が射したチャンスを的確に捉えられたことにより、樹木が生き生きと表現されました。連なる手前の山々の奥に小さい傘を被った富士が印象的です。

入賞

朝光に映える

大戸 康世（山梨県大月市）

姥子山



撮影者コメント

カラマツの黄金色が朝の光を受け真赤に染まりゆく。初めての感動でした

川隅功氏講評

手前のカラマツ林に朝日が差し込み、真っ赤に染まった色合いがインパクトを与えてくれます。富士の後方に掛かる薄雲も紅に染まり幸運でした

入賞

霧が漂う光景

愛澤 和弘（埼玉県所沢市）

牛奥ノ雁ヶ腹摺山



撮影者コメント

大月市の屋根と云われている小金沢連嶺。小金沢山と牛奥ノ雁ヶ腹摺山指すが人の入山は少なく静かな山である。山頂からは富士山方面の視界は広く奥行きのある写真が得られる。山頂に着いたとき、視界は全くなかったが、いきなり視界が開き、霧が漂う場面に出会った。

川隅功氏講評

広大なスケール感を感じます。右下の斜めのシャドウ部やシルエットの樹木を取り入れたことにより、より一層の奥行き感が表現できたと思います。霧の流れの表現も的確でした。

入賞

蒼天に映える

山下 政明（神奈川県秦野市）

小金沢山



撮影者コメント

奥深い小金沢山へ雪を踏みしめ登ると、美事な霧氷に出会えました。美しい枝振りの下に富士を配し撮影しました。

川隅功氏講評

風雪に耐えてきた力強い枝ぶりの取り入れ方が、ダイナミックで迫力があります。その反面富士の姿は穏やかで、そのギャップ表現が良いと思います。

入賞

朝日に染まる 富岡 茂雄（埼玉県比企郡） 大蔵高丸



撮影者コメント

前日の降雪の中、やっとの思いで、山頂に着く。素晴らしい霧氷の朝となっていた。

川隅功氏講評

降雪の次の朝、苦勞して登山した努力が報われました。手前の霧氷林の色のトーンの表現・位置・分量ともバランスが取れていると思います。

入賞

新緑と富士山

大戸 康世（山梨県大月市）

ハマイバ



撮影者コメント

澄んだ空気の中で出合った緑の鮮やかさ目にしたままの色に写すことが出来ました。

川隅功氏講評

気持ちを明るくしてくれる透明感を感じる初夏の写真です。中央の緑の山・富士山がポカッと浮いているようです。一番手前の緑の山の取り込み方も的確でした。

入賞

樹氷と湧き上がる霧

愛澤 和弘（埼玉県所沢市）

笹子雁ヶ腹摺山



撮影者コメント

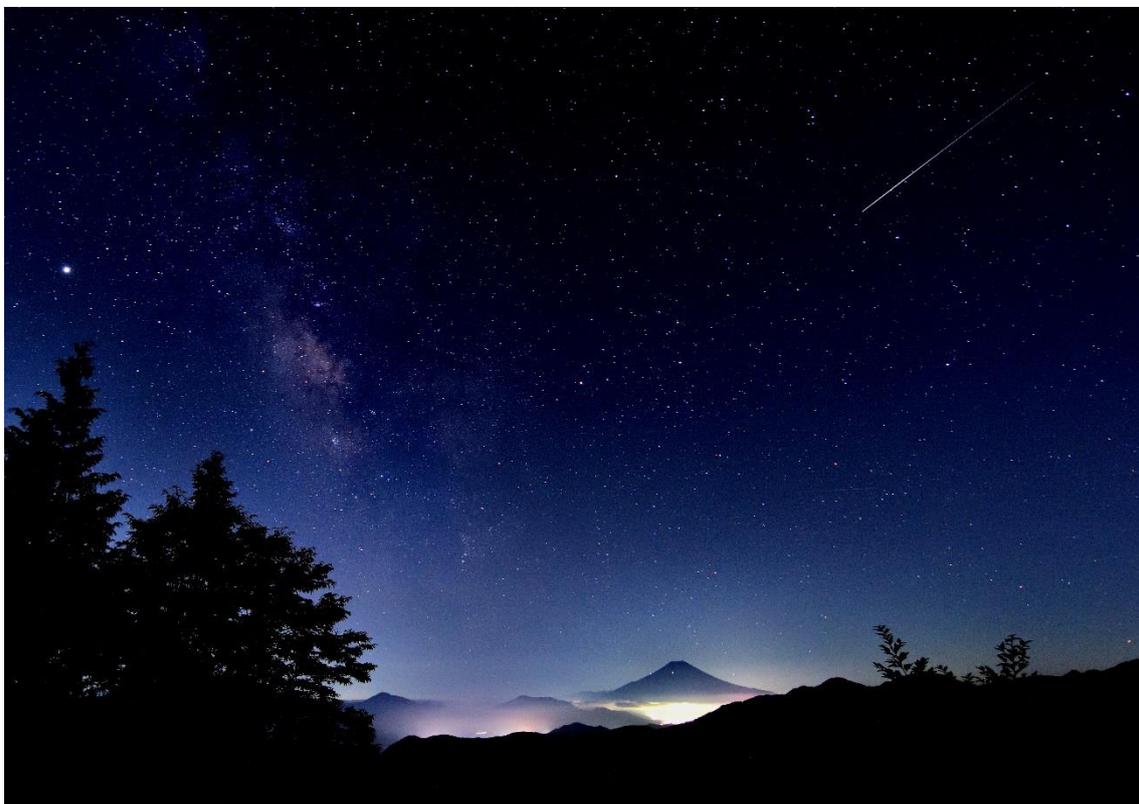
登山道には薄っすら積雪があり、アイゼンの装着に迷ったが行ける所まで未装着で行くことにした。山頂付近の急斜面はハードであるが、アイゼンなしで山頂を踏んだ。枝に着氷した樹氷は富士山と溶け合い、更に、湧き上がる霧が画面に動きを与えている。

川隅功氏講評

手前の樹氷林の取り入れ方と富士山の位置関係が絶妙に良いと思います。画面左側の空間に霧が湧き上がるシャッターチャンスも的確です。

入賞

夏の共演 村上 敏幸（山梨県大月市） 奈良倉山



撮影者コメント

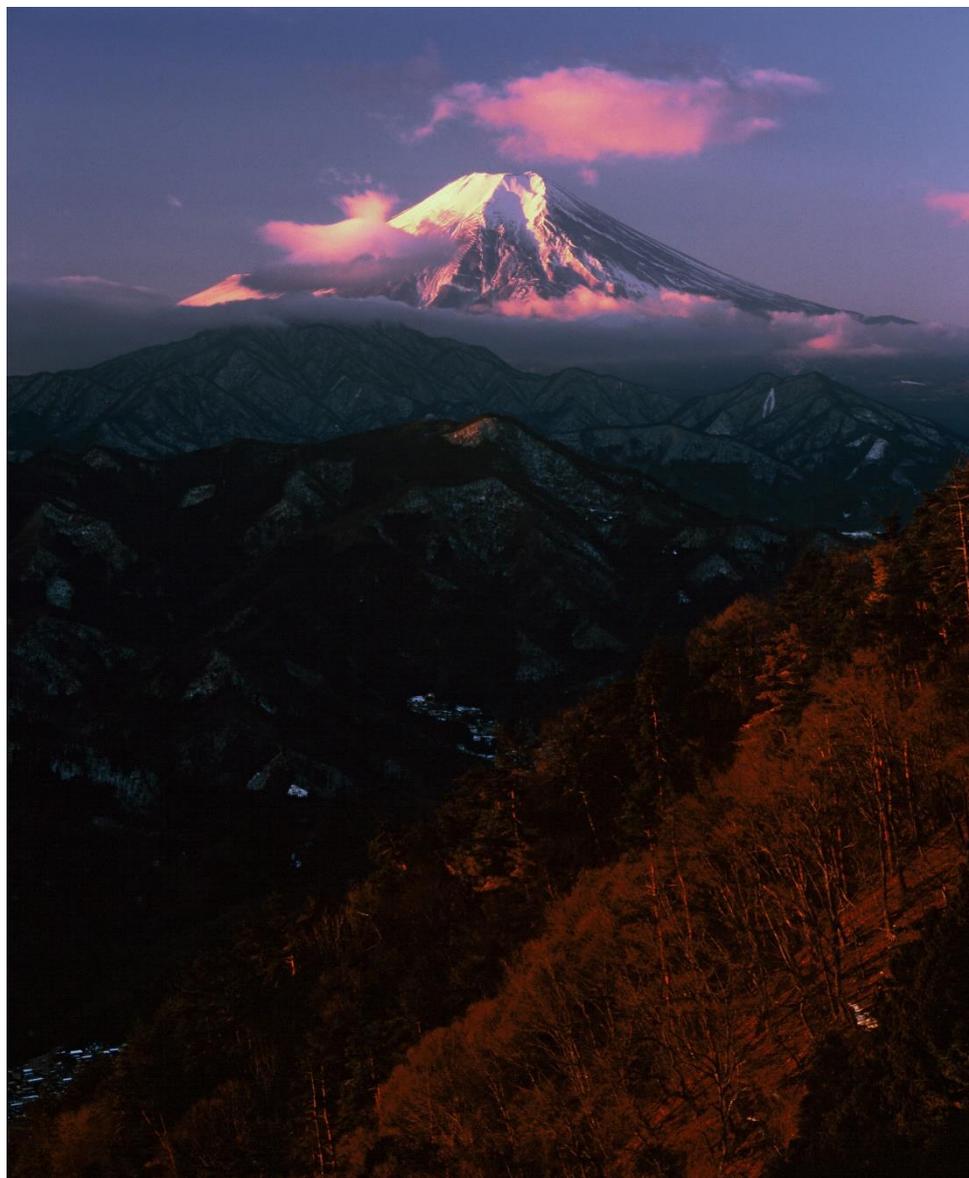
富士山に登山者のいない真夏の星空を撮影

川隅功氏講評

デジタルカメラの普及により、星風景写真が以前より身近になりました。天の川と流星の共演ですが、富士周辺の街明かりが強く、星数が少なかったのが残念です。

入賞
朝光

三浦 義朗（埼玉県入間郡） 扇山



撮影者コメント

数年ぶりに扇山に登り撮影しました。大月市の写友の皆様には、日々、山情報等をいただき感謝申し上げます。

川隅功氏講評

この写真も縦構図ですが、手前の朝日を受けて赤く染まる樹林を配置して、奥行き感を表現する縦位置のセオリー通りのフレーミングが良いと思います。

入賞

啓蟄の淡雪 桜庭 絵唯子（静岡県田方郡 百蔵山



撮影者コメント

光が届き凍った雪の華が柔らかくなった頃、山頂が強裂に紅く染まった。

川隅功氏講評

啓蟄の候でも富士周辺は、雪化粧ですが、何となく春先の柔らかさを感じます。絹の絨毯のような雲海にも季節感を感じます。富士山頂付近は、極寒の紅の世界と思います。

入賞

守り神 宮川 雄也（埼玉県所沢市） 岩殿山



撮影者コメント

岩殿山から見る富士山は大月市街含む地域の守り神に見えた。

川隅功氏講評

ミニチュアのような大月の町が、ジオラマ写真風に表現され面白いと思いました。守り神に見立てた富士山の周辺の雲がもう少し少なかったら、もっと富士の存在感が強く表現できたと思います。

入賞

春の彩り

天野 喜夫（神奈川県相模原市）

お伊勢山



撮影者コメント

春を満喫しながら撮影しました。

川隅功氏講評

ピンク色が強い桜がピークを迎え、春の光を受けて際立っています。富士山の前景に力強い枝ぶりを探し、富士を包み込むような立ち位置で撮影できたのが、良かったと思います。

入賞

吊し雲と富士 大戸 康世（山梨県大月市） 九鬼山



撮影者コメント

早朝からの大きな吊るし雲が変化して行く様子を写しました。

川隅功氏講評

非常に珍しい形の吊し雲に遭遇されました。又その雲の影が、富士山に掛かり面白い表現になりました。偶然に出会うのも腕の内ですし、その遭遇を的確に表現されています。

入賞

夕暮れ時 小林 博文（山梨県甲府市） 高川山



撮影者コメント

夕暮れの時間に月が富士の上にくる日を狙い、三ヶ月と街明かりと残照を収めることができました。（月の右下には接近した木星と土星も写っています。）

川隅功氏講評

月の位置を計算されて撮影に臨まれた成果が発揮できたと思います。富士山も月も画面のど真ん中に配置した大胆さに驚きましたが、斜めに流れるような雲が発生してくれたのが幸運でした。

入賞

霧氷輝く朝 山下 政明（神奈川県秦野市） 清八山



撮影者コメント

雪の登山道を登ると予測通りの霧氷の世界、光が射すのを待って撮影しました。

川隅功氏講評

縦構図が光る写真です。手前の霧氷樹と富士山の位置関係を絶妙に計算され、撮影ポジションを細かく決められていることが良いと思います。67判の横縦の比率もとても効果的でした。

入賞

雪陵を染めて

内藤 均（山梨県南アルプス市）

本社ヶ丸



撮影者コメント

厳寒の中、朝日に染まる雪景色が美しい

川隅功氏講評

前景の扱い方が絶妙で素晴らしいです。朝日が前景に当たる時間差を利用して、構図による奥行き感と色彩による奥行き感との両方を巧みに使いこなして、作品に深みを与えています。

総評

審査員長 川澄 功

私の審査として2年目を迎えました。初見で応募作品を全体的に拝見した時、前回よりさらにレベルアップしているなーと思い、激戦が予想されました。

今回からフィルムカメラ・デジタルカメラ共通の募集で、コンテストのために撮られていると伝わるベテランの方々の意欲的なフィルム作品が応募されている一方、最新式のデジタルカメラの特性を活かした若い方々のフレッシュ感覚の作品が奮闘して、フィルム派デジタル派と非常に激戦でした。本来、撮影に使用する機材にフィルム・デジタル、どちらが優位不利と言う訳ではなく、応募のプリントの最終工程まで気を抜かずに仕上げられた作品を優と考え、選考の優劣を付けさせていただきました。

フィルムで撮影された写真は、撮影して終わりではなく、ラボに依頼してプリントされたと思いますが、ラボマンにご自分のイメージ通りに仕上がるまで指示を与え、納得がゆくまでご自分の作品プリントに気を配るべきだと思います。

一方、デジタルカメラで撮影された写真は、ご自分の感覚でパソコンでイメージを膨らませ現像して、ご自分でプリントされていると思います。どの工程も納得がいくまで追求すべきと思います。

今回最優秀賞を獲得された作品は、ご自分でプリントされたと思いますが、ペーパーの種類までこだわりを持ち、撮影の現場で感じた感触までも表現されたプリントだと思います。

昨今、デジタルデータを不自然なまで調整し過ぎた作品があります。撮影した時の記憶色のイメージが強すぎて、過度の調整をしてしまう傾向にあると思われます。今回の応募作品の中にも、同じ山で同じ日に撮影された作品と思われなような過度の調整も見られました。

来年以降応募される方は、その点十分にご注意され、美しいプリントを期待致しております。富士山は美しいのですから、過度の化粧は必要ないと思います。